

## 企画展「ほうきと竹かご」によせて—30年前の取材から現在の栽培まで—

市民学芸員 小森 和雄

昭和58年(1983)3月、図書館主催でビデオ作品作り講習会があり、私を含む3名は「伝統産業を訪ねて 富士見の<sup>ほうき</sup>箒づくり」(15分)を作成しました。市内山室で箒の製造業を営んでいる「浦野産業」さんと、鶴瀬西の箒職人「竹内」さんを取材したものです。

その後、竹内さんは他界され、現在、富士見市内の現役の職人は知りませんが、ふじみ野市・三芳町には、現在も活躍している方がいるようです。



平成24年(2012)、ふじみ野市立大井郷土資料館で、ほうき展と合わせて製作実演会が行われ、ビデオ撮影させて頂きました。そこで「座敷箒を作る材料『ホウキモロコシ』は輸入に頼っていること・箒の需要の減少により海外でもホウキモロコシが生産されなくなるかもしれないこと」を知りました。それを聞いた私は「産業としては無理としても、座敷箒の伝統を残したい、それには材料となるホウキモロコシの栽培を続けることが必要だ」との思いからタネを探し、平成25年から「ホウキモロコシを育てる会」との名称で、協力者を求め、栽培してきました。

ビニールハウス(ポットにタネまき)は3月、露地栽培は5月にタネをまき、7月から8月が主たる収穫時期(プロは8月で伐採)、私は少しでも収穫量を増やすため、2番穂・3番穂を期待して10月まで伐採しません。ホウキモロコシは、トウモロコシに似ています。高さは2mを超えますが、茎は細いので、風雨に弱いのが悩みです。

種が熟す前に穂の下40cm位で刈り取り、その日の内に、脱穀・天日干しします。翌日から数日間は、穂先を隠して茎のみ天日干しします。こうすることで、青い穂先の座敷箒ができるのです。夏の暑さでの脱穀・天日干しは老体には堪えます。

座敷箒には、茎が太く・穂が茎の先端より40cmほどしなやかに伸びているのが良いのですが、なかなか良質のホウキモロコシは育ちません。茎が細

い・穂が短い・茎が枝分かれ・虫に髓を食われたものが多く、良質の材料を育てるのは難しいことを知りました。

難波田城公園に近接する畑の一部を借用し、平成25年は627本収穫しました。虫に食われて穂先しか使用できないもの107本・残り520本の中で茎の直径が8mmを越えるのは62本(収穫の約10%)でした。これでは箒1本すら作れません。

平成25年9月、NHK首都圏ニュースでは「栃木県の鹿沼箒の製作に当り、材料不足で悩む職人へ宇都宮大学生がホウキモロコシを育て5,000本届けた。良質の箒5本が製作できる」と報じていました。箒1本作成に100本必要なので良質率は10%、私の初年度栽培と同率でした。

私には座敷箒を作る技がありません。また、良質の材料づくりも大変です。そこで、収穫の大半を占める細い茎・短い穂・枝分かれ等、いわゆるクズの穂を使い、ミニ箒・ミニミニ箒作りを考えました。

たまたま元職人と面識を得たことや、今までの取材を通じて得た製作の知識を元に、何本かのミニ箒(20~30cm程度)やミニミニ箒(10cm以下)を作成してきました。職人としての修業は「穂分け(穂を何に使えるかを見分ける)」からだそうですが、色々な形・長さの穂を作成する箒をイメージしながら分けていくには、何本か作成し、失敗し、悩み、考えるプロセスが必要だと思います。



企画展会期中に「ミニ箒づくり体験」を予定しています。見た目には、チャッチイ材料ですが、畑での栽培・脱穀・乾燥・材料の選別等々、多くの手間を必要とします。現在は、手間ひまかけず何でも手に入る時代ですが、先人は手間ひまかけてモノを作ってきました。箒作りでは、その苦労の中に、機能性と共に、芸術的な美しさを創りあげてきたことを感じて下されば幸いです。

市民学芸員のページ \*このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

古民家シリーズ④ 『五右衛門風呂』

四十年ほど前、熊本・天草の農家で、五右衛門風呂に案内されました。どう入るのか、戸惑ったものです。かまどの上に鉄釜を据え、下から直火で沸かす。入浴するには、浮いている底板を踏み沈めます。安土桃山時代の大量盗賊、石川五右衛門が釜ゆでの刑に処されたことから、この名が付いたことはよく知られています。

ところで、その起源は意外と古く、東大寺の再建で知られる僧重源ちゅうげんが、平安時代末、周防国(山口県)でつくったそうです。中国の宋に遊学した際に見た鉄湯舟をまねた、ともいわれています。

旧大澤家母屋の五右衛門風呂は、立派なもので、今も現役。夏の小学生の古民家宿泊体験などで活用しています。釜は内径 73 cm、深さ 60 cm。底板は直径 54 cm です。内径 35 cm の上がり湯用釜も付いています。ただ、これらは大澤家のものではありません。移築復原の際、別の家から寄贈されたものを再利用しました。大釜は市内水子地区の方から寄贈されたものです。(『難波田城公園 古民家復原工事報告書』) 大澤家の方に尋ねると、五右衛門風呂は、現当主が中学生の頃(一九六〇年代後半)まで使っていたそうです。(山本長春)



フロバの外観 (焚き口側)



五右衛門風呂

おもしろ・なつかし体験④

拓本体験教室

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

私が市民学芸員として活動を始めてから、もうすぐ一年になります。

当番の日には、旧金子家の庭に面した納屋(市民学芸員詰所)の前に立って、竹馬やベーゴマ・メンコ・ビー玉などの昔遊びに興じている親子連れの皆さんと、よもやま話をして、楽しく心とむ時を過ごしています。

昨年 10 月 31 日のことでしたが、一緒に当番だった先輩の市民学芸員の方から「ガイドツアーは自分が引受けるから、拓本体験教室に参加してみては?」と勧められ、急ぎよ参加しました。

「たかが拓本」と軽い気持ちで参加しましたが、起源・種類・材料・心得などを教えてもらい実際に拓本をとってみると中々興味深い新発見があり、終わってみたら「されど拓本」という充実した楽しい体験をすることが出来ました。

これをきっかけに、「墨ながし」などの「ちょっと体験」をしてみたり、公園での楽しみが増えてきました。

大勢の皆さんにも、難波田城公園のさまざまな体験学習やイベントで、新発見を楽しんで頂きたいと願うこの頃です。(小山内鏗爾)



板碑の拓本をとる



馬頭観音の拓本をとる

## 人の創ったもの★人の使ったもの

### 富士見のほうき作り

企画展『ほうきと竹かごー自然素材の生活用具ー』3/12~6/12

#### ほうきは入間東部地区の特産物



小杉商店のほうき職人  
(大正 8 年頃)/小杉弘氏蔵

まもなく始まる企画展では、昭和 30 年代(1960 ごろ)まで入間東部地区でさかんだった「ほうき作り」を紹介します。作っていたのは、ホウキモロコシを使った座敷ぼうきと荒神ぼうきです。もっともさかんだったのは大井地区(ふじみ野市)で「大井ぼうき」と呼ばれるほどでした。しかし、富士見市内でも負けないくらいにさかんだったのです。

#### ほうき屋は花形産業

鶴瀬地区の浦野幸吉さんは、昭和 28 年(1953)に中学を卒業すると、近くに住む親方のもとで修業を始めました。当時は「鶴瀬村のほうき草(ホウキモロコシ)は全国で一番」と言われ、「ほうき屋は花形の職業」でした。まだ自動車が珍しかったころ、「車を持つてるのはほうき屋くらいだ」と言われていたそうです。鶴瀬村で大きかったほうき屋は、小杉商店・榊原幸蔵商店・吉田商店でした。それぞれの店では 6~10 人ほどの職人がおり、住み込みがいたこともありました。修業は 3 年間。一日で長柄ぼうきなら 10~12 本、手ぼうきなら 20 本を作れば、一人前の職人と言われました。一人前になり、一年間の礼奉公の後、しばらく親方の元で働き、独立することが多かったようです。自宅で一人でほうき職人として生計を立てた方も多数いました。



ほうき工場の前に立つ榊原幸蔵氏と家族(昭和 27 年頃)/榊原一資氏蔵

このコーナーでは、当館所蔵の資料を紹介します。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

#### 瑞宝章を受章

榊原幸蔵さんは全国座敷帚製造組合連合協議会の理事長や要職を長年務めた功績を認められ、昭和 46 年(1971)春に天皇陛下から瑞宝章を受章しました。



上鶴馬氷川神社鳥居脇の碑(点線)  
表書きは「鎮守 氷川神社」  
裏に章記と同じ文章が刻まれている

これを記念して幸蔵さんは上鶴馬氷川神社の鳥居脇に石碑を奉納しました。

#### 海を渡ったほうきの技

昭和 40 年(1965)頃になると、電気掃除機が普及し、座敷ぼうきの需要が減り始めました。この頃、高度経済成長で勤め先が増えたこともあり、ほうき職人が減りました。ほうき屋は新たな生産方法を開拓する必要に迫られ、低コストで生産できる「カーぼうき」を考案しました。



インドネシアで指導する浦野氏  
(昭和 46 年頃)/浦野幸吉氏蔵

また、人件費の安い海外での生産に挑戦した職人もいます。市内の浦野幸吉さん(前出)と大井地区の渡辺一さんです。昭和 45 年(1970)頃、インドネシアのプルウオケルトでホウキモロコシの栽培を始めました。温暖な気候のため、年に 3 回収穫できました。翌年からは現地の若者 200 人に製作指導も始めました。指導は苦勞しましたが、数年後には軌道に乗り、材料の他に現地製作のほうきも輸入するようになりました。最盛期の作付け面積は約 300 町歩(300ha)、ほうきの年間輸入量は約 15 万本でした。現在、ホームセンターなどで販売されている外国製座敷ぼうきは、浦野さんたちに教わった人たちが独立し、さらに技を伝えた、孫世代が作ったものです。日本の技が海外で生き続けています。(駒木敦子)

## \* \* 春のイベント予定 \* \*

### ●企画展情報

#### 春季企画展

#### 「ほうきと竹かごー自然素材の生活用具ー」

地場産業として盛んだった座敷ほうき、さまざまな場面で使われた竹かごを紹介します。

会期／3月12日(土)～6月12日(日)

会場／特別展示室 入場無料

#### 関連イベント

##### ①講演会「竹かごの生産と流通」

江戸・東京の近郊で作られた(開発された)竹かごを中心にお話しいただきます。

とき／3月19日(土) 午後1時30分～3時

定員／30人(申込み順) 参加費／無料

講師／服部 <sup>たける</sup>武氏(県立歴史と民俗の博物館)

申込み／直接又は電話で

##### ②竹かご作り実演

ヒゴ作り、底編みなどの技をご覧ください。

とき／4月9日(土) 午後1時30分～2時

定員／なし 参加費／無料 会場／旧金子家住宅

協力／資料館友の会竹かご部会

##### ③ミニほうき作り

全長約11cmのミニほうきを作ります。

とき／4月23日(土) 午後1時30分～2時30分

定員／15人(申込み順) 参加費／無料

申込み／4月2日(土) 午前9時より電話で

指導／市民学芸員

##### ④談話会「ほうき作りと私の人生」

とき／5月21日(土) 午後1時30分～2時30分

定員／30人(申込み順) 参加費／無料

講師／浦野幸吉氏 申込み／直接又は電話で

### ●ちよこつと体験「昔の着物を着てみよう」

野良着や羽織などを着て、ちよこつと昔の気分を味わってみませんか。子ども用も大人用もあります。

とき／3月26日(土)、27日(日) 午後1時～3時

※2時30分受付終了

場所／講座室 参加費／無料 直接ご来場ください

※順番待ちをしていただく場合もあります

協力／和道文化着協協会

### ●田んぼ体験隊(全7回)

種まきからもちつきまで年間を通して活動します。

場所／公園内田んぼ

定員／15組(1組4名以内)。申込順。

対象／市内在住・在学・在勤者を含む家族又は友人

参加費／1組1000円(年間。材料代・通信費)

持ち物／汚れてよい服装、田んぼに入るときの履物

申込み／4月2日(土) 午前9時より電話で

農業指導／柳下春良氏(地元農家)

日程／

| 回 | 内容               | 日付                  | 時間     |
|---|------------------|---------------------|--------|
| 1 | 説明、種まき、耕起        | 5/21(土)             | 14～16時 |
| 2 | 代かき、田植え          | 6/18(土)             | 14～16時 |
| 3 | 草取り<br>(1回以上参加)  | 7/2, 9, 23の<br>各土曜日 | 10～11時 |
| 4 | かかし作り、<br>流しそうめん | 7/30(土)             | 10～12時 |
| 5 | 稲刈り、矢来かけ         | 10/15(土)            | 14～16時 |
| 6 | 脱穀               | 10/29(土)            | 14～16時 |
| 7 | もちつき、わら細工        | 12/17(土)            | 10～12時 |

### 難波田城公園活用推進協議会主催事業

#### ◆ちよつ蔵市

3月27日(日)草もち

4月24日(日)かしわもち

5月はお休み

田舎まんじゅう販売  
第1、3日曜日 10:30～  
お月見亭(予約制手打ちうどんランチ)  
3月8日(火)、4月12日(火)  
5月10日(火) 11:30～13:30

#### ◆難波田城公園まつり

6月5日(日)に開催する予定です。

※他にも様々なイベントがあります。各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。

#### 〈開園時間変更のお知らせ〉

4月から9月の間、公園の開門時間は午後6時になります。資料館と古民家は午後5時までです。



編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)